詩

初恋

初恋(イ)

島崎　藤村

①まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの②
その髪の毛にかかるとき
③たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

④林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

文語定型詩と口語自由詩

昔の書き言葉を用いて表現された詩を**文語詩**、現代の話し言葉を用いて表現された詩を**口語詩**という。また、音数に一定のきまりがある詩を**定型詩**、きまった音数などの規則にしばられない詩を**自由詩**という。

江戸時代までの日本では、詩はおもに漢詩を指していたが、明治時代に西洋の詩を翻訳する中で**文語定型詩**が生まれた。さらに明治時代末期頃になると、話し言葉を用いて自由な音数で表現する**口語自由詩**が広まるようになった。

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 詩を、使われている言葉や形式、内容から分類したときに、「初恋」に当てはまるものを次から二つ選びなさい。

ア 文語定型詩　イ 口語自由詩
ウ 叙情詩　エ 叙景詩　オ 叙事詩

［　・　］

(2) 「初恋」で、初めて恋心を抱いたことがうたわれているのは第何連か。漢数字で答えなさい。

第□連

(3) ――線①「まだあげ初めし前髪」の意味を選びなさい。

ア まだ結い上げたばかりの前髪
イ まだ結い上げたことのない前髪
ウ まだ結い上げたことしかない前髪

［　］

(4) ――線②「こころなきためいき」の意味を選びなさい。

ア 思いやりがなく、無愛想なためいき
イ 本心ではない、表面的なためいき
ウ 思わず、無意識についたためいき

［　］

(5) ――線③「たのしき恋の盃を／君が情に酌みしかな」に用いられている表現技法として、適当なものを選びなさい。

ア 体言止め　イ 倒置　ウ 対句　エ 比喩

［　］

(6) ――線④「おのづからなる細道」とはどのような道か。適当なものを選びなさい。

ア 二人が樹の下で見つけた、自然のままに草で覆われている道。
イ 二人が何度も樹の下に行き来するうちに自然にできた道。
ウ 二人が林檎畠を訪れる以前からあった、昔のままの道。

［　］